

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470201205		
法人名	医療法人 慈愛会		
事業所名	グループホーム やまなみ ユニットA		
所在地	大分県別府市大字南立石274-2		
自己評価作成日	令和7年10月10日	評価結果市町村受理日	令和7年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和7年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、要介護1～5の認定を受けた入居者が共同で生活をしている。精神科の医療機関が母体で、介護老人保健施設に併設されており、合同で防災訓練を行い、避難場所としても病院、施設、地域とも協力体制が出来ている。医療面においては、母体の医療機関を協力医療機関として協定書を締結しており、休日、夜間問わず外来診療及び入院治療を受けることができる。また、やまなみ苑訪問看護ステーションと連携が出来ており、医療面のサポートを受けられるよう体制は整っている。活動面では、リクエストに対応した食事会や外出の機会を作り、戸外で季節行事など行っており、夏祭りなど御家族、地域の方にも参加していただいている。また遊歩道を個人のペースに合わせた散歩、身体及び口腔体操やレクなども日々行っている。地域との交流も温泉祭りや盆踊りなど地域の行事に出向き、地域活動にも参加させていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・理念に基づき一人ひとりの個性を生かし、毎日の生活に取り入れている。また、地域との連携も毎月の 会議に参加するなどして密に取れておりそれにより様々な地域の行事に参加し、利用者の楽しみに繋がっている。
 ・コロナ禍もあけ積極的に外出する機会を作っている。ドライブや花見、外食、買い物など利用者の喜びに繋がっている。
 ・敷地内に菜園を設け水やりや収穫の喜びを実感している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	御本人、御家族の意向を確認しながら、個々に適したケアが提供できるよう心掛けている。戸外での散歩、活動を積極的に取り入れ、自然に触れながら健康づくりも行っている。	日常の活動の中で、一人ひとりの生活に合わせた支援を行うことで理念が生かされている。タブレットで家族と会話したり自宅周辺を映像で見てもらうなど理念に沿った支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の温泉祭り、供養盆踊り、敬老祝賀会などに参加している。自治体が管理しているお地藏様の花の交換や周辺の清掃などは継続して行っている。	毎月1回地域の会議に出席し、地域の情報を得ている。その中で利用者とともに参加できる行事には積極的に参加している。お祭りや餅まきなどは利用者がとても楽しんだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館などで認知症カフェを開催しており、参加している。また地域で行われる講習会や会議にも参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入退居、感染症の状況や日々の活動、行事の様子など資料やスライドを活用しながら、会議の中で紹介している。また施設に対する要望や意見などもご家族や地域の方、委員の方から頂いており、内容も職員会議で共有している。	参加者の市役所職員や包括からは毎回意見をもらっている。ほかには菜園での作物の作り方や、災害時の避難の仕方など様々な意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、入居者や施設利用状況を報告している。運営推進会議で市の担当者から意見をいただく機会もある。また状況に変化があった場合には、担当のケースワーカーにも連絡を行い情報を共有している。	入居者の中に生活保護の方も多く毎月の訪問や安心サポートでの訪問もあり、市の担当者とは密に連絡を取り合い、協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間防犯上、17:00以降に玄関を施錠しているが、その他の時間帯は施錠せず対応している。また身体拘束をしないケアについては職員全体で研修会を開催し積極的に取り組んでいる。	毎年研修を行い、職員は何が身体拘束に当たるのかをきちんと把握している。スピーチロックに関しても言葉を言い換えて具体的に答えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置しており、年2度高齢者虐待に関する研修会を実施している。また別府市GH連絡協議会主催の研修会にも参加している。一人ひとりケアを振り返り、職員全体で虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援相談員に制度の講習を依頼したり、委員会による研修会を行っており、学びの時間を確保している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や運営規定など細かく説明し、疑問点を確認しながら同意をいただいている。特に退居につながるような体調不良時には再度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や運営推進会議などで、意向や意見交換など行えるよう機会を設けている。施設内にも意見箱を設置し、意見は職員会議などで共有し、日常に反映させられるよう心掛けている。	家族には面会時や電話で意見や要望を聞く機会を作っている。毎年ほかほか新聞を送付して様子を伝えている。これからは遠慮して言えない家族にも積極的にアプローチしていく予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、職員の意見を聞く機会を設けている。代表者とも運営会議で状況の報告や職員からの意見も提案し共有している。	職員からは要望や意見が言いやすく、餅つき器が欲しいとか、浴室をもっと暖かくできないか、玄関に音が鳴るものを設置したいなど様々な要望が出ている。職員で話し合い実現できたことも多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回人事考課を行っており、昇給に反映させている。資格取得後に給与に反映される為、やりがいや向上心にも繋がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修会を行い認知症ケアについて学ぶ機会を設けている。また別府市GH連絡協議会や行政開催の研修会も参加し、スキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市GH連絡協議会が開催する研修会や毎月行われているオレンジカフェなどに参加し、お互いの施設での取り組みなどの情報交換などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前相談や施設職員が訪問するなど、本人や関りのある方に情報収集を行っている。また入居直後は環境の変化への不安解消と入居者や職員との関係性の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人もしくは家族の訪問を基本とし、実際に施設内の様子を見学して頂いて、説明を行っている。不安や要望等もゆっくり聞き取りができるよう配慮しており、対応についても家族の意向を確認し、同意をいただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療機関や隣接の施設からの入居依頼が多い。主治医や家族、関係職員から情報提供をいただいております。本人、家族の意向を確認し、同意の上で支援にあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に取り組むよう努めており、一方的な関わりにならないように心掛けている。また本人の自主性も大切にしておき、活躍できる場面を模索し、職員間で共有しながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況や施設の状況などをお知らせする機会を作っている。また家族の協力が必要な場面もあり、家族のつながりは大切にしておき、行事や病院受診など、家族と共に支え合えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親族とは関係性が保たれているが、知人や友人との関係は疎遠になっている。馴染みや思い出の場所などは、レクの中で聞き取りを行う工夫をしており、デジタル機器を活用し一緒に視聴できるよう努めている。	元教え子から手紙が来ることもあるが、なかなか関係継続は難しく、思い出の場所や自宅近くをタブレットで見てもらうなどの工夫はしている。家族の協力でお墓参りや、法事などには出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業ができる活動を取り入れたり、施設内外でも関わり合える機会を提供したりしている。また職員が孤立しないよう、交流できる支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の病院や施設への移動に関しては、面会や様子の確認などを行っている。退居後にご家族と関係が継続している方は殆どいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向については、日常の中で確認を行っており、日常の気付きも共有し、ケアに繋げている。	生活歴や家族からの聞き取り、本人との会話の中で確認している。新聞のチラシやテレビなどを見て、これが食べたいなどの把握をして、外食に行ったり、買い物に行ったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	医療機関や併設の介護施設からの入居が多いため情報提供があり、活用している。また支援しながら最善と思われる環境に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	医療機関や併設の介護施設からの入居が多く、得た情報を基に、本人の生活リズムの把握に努めている。また一緒に生活することで、小さな発見や気付きを共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者、職員が参加し担当者会議を行っており、ケアや課題についても共有している。また日常のケアを担当している職員が意見や気付きを出しやすい環境を整えている。	毎月モニタリングを行い、関係者とのサービス担当者会議を行っている。ケアプランに関しては抽象的になりがちなので今後、小さな気付きも見逃さずケアプランに反映していきたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の日々の記録は行っているが、個別の工夫の記録に関しては不足している。細かな情報も職員間で共有し、実践できるよう検討は行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診は基本、御家族に行っていたが、ケースによっては職員が付き添いを行っている。また必要な手続きや日常生活用具の発注なども本人に代わって行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のコンビニ、スーパー、訪問販売等で消耗品や好みの物を購入している方もいるが、代行することが多い。訪問内容も活用し、季節に合わせ髪型などは美容師と相談し決めている。またオレンジカフェなどに参加し、参加者と交流し楽しめている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医療機関を選択されるケースが多い。持病に応じ、他の医療機関を継続して受診している方もおられる。緊急時にも備え、事前にどの医療機関を選択するか、御家族に確認も行っている。	法人の医療機関からの紹介で入居された方が多く、そのままかかりつけ医となっている。他科受診の際は職員が同行して、家族には密に連絡を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携を図ると共に必要な情報共有を行っている。日常の健康チェックや症状の変化で病院受診を行っており、医師からの指示の共有も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	スタッフが出向き、必要な情報提供を行っている。また連携室等とも連絡を取り合い、情報共有や退院調整なども行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期をむかえるにあたり、家族と話し合いを重ね、グループホームで可能な対応を理解していただいている。また症状に応じ、御家族と連絡を密にし、情報共有している。	家族には入居時に看取り指針をもとに説明を行っている。重度化した場合は主治医や家族と相談し入院や住み替えも視野に入れ今後のことを話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や連絡体制など確認する機会を設けている。また協力医療機関や訪問看護など体制は整っているが、様々な急変がある為、今後も研修や訓練は継続し実施する必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練や風水害の訓練を行っており、緊急時の避難方法等を確認している。年間1～2度は実際に垂直避難を行うことがあり、防災意識は高い。運営推進会議でも詳細を報告し、協力体制を確認している。	毎年、防火訓練や自然災害を想定した避難訓練を行っている。水害地域の指定もあり、水害に関しての防災意識は常に確認している。隣の法人施設とも連携が取れていて協力関係が出来ている。備蓄は4.5日分ある。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助は自室のトイレを使用しており、プライバシーに配慮している。また声掛けにも注意し、自尊心を傷つけないよう対応している。	排泄は自室のトイレに誘導していてプライバシーは保たれている。職員同士で利用者の話をする時は名前を出さずに、部屋の番号で伝えることにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の思いを自然に言葉にできるように、日常会話から引き出せる工夫をしている。また普段から自己決定ができるよう声掛けをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、一人ひとりの希望やペースに沿った支援を心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月訪問してくれる美容室があり、希望に応じ散髪を行っている。また毎日化粧を行う方もおられ、必要な道具を揃えており、爪の手入れなども行っている。御本人の好みやこだわりも大切にしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自助具や自助食器などを活用し、できる限り自力で食事を楽しめるようにしている。また食後の片付けなど、職員や他の入居者と協力している。	毎日の食事には必ず季節の食材を使った料理を提供することになっている。また外食やおやつ作りも積極的に行い、大学芋、焼き芋大会、シソジュースを作り、年末には餅つきを行い一緒にあんこを丸めるなど楽しめる工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立に関しては併設の管理栄養士がおこなっており、バランスの良い食事が摂れている。食事摂取量や水分量も、記録し把握している。また御家族にも御本人の体調に応じ、好みの物を持参していただくなど、ご協力していただいている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の口腔内に応じて、歯ブラシや舌ブラシを使用できるよう揃えている。また訪問歯科診療を利用できる為、継続した治療、指導も受けることができる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握することに努め、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。また紙オムツ類もいつでも交換しやすいよう、配置にも気を配っている。	排泄はパターンを把握し、時間を見て誘導したり、声掛けを行うなど日中も夜間も自室のトイレで行われている。自立の人も多い。夜間おむつの人には安眠を妨げないよう交換を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	何種類かの水分を準備しており、好みによって摂取できるようにしている。個人で購入している物やご家族が持参されるものもある。また食事の形態や量なども職員間で共有しており、オリゴ糖なども摂取される方もいる。体操や散歩など適度な運動も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上、入浴ができるよう調整を行っており、本人の希望にも柔軟に対応している。夜間の入浴は実施していないが、状況に応じては行っている。	温泉が引いてあり、いつでも入浴できるようにしている。個人のタイミングで入れるよう工夫し、拒否する人にも無理強いすることなく時間をおいて誘ったり工夫しながら清潔を保つようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後は一般の家庭と同様にゆっくりとした時間を過ごせるよう配慮している。不眠傾向にある入居者に関しては、職員間で情報を共有し、日中の活動の見直しなどを行い、睡眠に繋げるように支援している。活動後はゆっくり休息できるよう声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者ごとの薬を保管する物に、内服と薬剤情報提供書を一緒に保管している。いつでも確認できるように、毎回処方された新しい薬剤情報提供書と入れ替えている。また調剤薬局の薬剤師に相談できる体制も出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の後片付けや裁縫、作品作り、音楽鑑賞、季節の行事など気分転換が図られる活動を計画的に行っている。また外出や買い物の代行や同行を行い、好みの物を購入している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	病院や買い物を中心だが、季節の行事ではご家族や地域の方のご協力を得られるよう働きかけている。職員が対応できる人数の入居者で、外出や希望の食事処に出掛けている。	散歩は暑い日も寒い日も朝とか夕方に時間を替えたりしながら行っている。敷地内に菜園があり、水やりや収穫も楽しみの一つになっている。花見、買い物、外食は喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人差があるが、金銭を所持していない方が大半である。外出時に希望の物が購入できるように支援している。また制度を利用し、生活している方には制度についてや残金についての説明を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で所有している携帯電話で会話されたり、タブレットのビデオ通話で、顔を見て会話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃する際に整理整頓を行い、安心できる環境作りに努めている。壁面装飾は季節感が出るよう工夫しており、入居者の作品や散歩で摘んできた花なども飾っている。	壁面には手作りの作品が飾られ、季節の花や観葉植物が置かれている。それぞれに本を読んだり、テレビを見たりしながらゆっくりとした時間を過ごしている。廊下には活動の写真が飾られ思い出話が弾むこともある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子、ソファなど自由にくつろげるように配置している。またテーブルもいくつか準備し、共有スペースであっても小グループで会話や活動をできるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたお気に入りの物やそのまま使用できる物を持ち込み、生活しやすい環境を整えている。テーブルや椅子なども個々で使用しやすいよう、相談しながら配置している。	居室では大好きな編み物、読書、テレビなどそれぞれに楽しんでいる。家族の写真や自分で書いた書道が飾られ、大きな窓からは季節の移ろいも感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事を自由に行えれるよう、分かり易く目に留まるよう配置に気を配った。ポスターを貼って理解しやすいようにしている。また座ってできる家事活動やできる方は下膳・食器洗いなど他者と協力して行っている。新聞や本類も自由に読めるよう配置にも気を配っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470201205		
法人名	医療法人 慈愛会		
事業所名	グループホーム やまなみ ユニットB		
所在地	大分県別府市大字南立石274-2		
自己評価作成日	令和7年10月10日	評価結果市町村受理日	令和7年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおい		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和7年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、要介護1～5の認定を受けた入居者が共同で生活をしている。精神科の医療機関が母体で、介護老人保健施設に併設されており、合同で防災訓練を行い、避難場所としても病院、施設、地域とも協力体制が出来ている。医療面においては、母体の医療機関を協力医療機関として協定書を締結しており、休日、夜間問わず外来診療及び入院治療を受けることができる。また、やまなみ苑訪問看護ステーションと連携が出来ており、医療面のサポートを受けられるよう体制は整っている。活動面では、リクエストに対応した食事会や外出の機会を作り、戸外で季節行事など行っており、夏祭りなど御家族、地域の方にも参加していただいている。また遊歩道を個人のペースに合わせた散歩、身体及び口腔体操やレクなども日々行っている。地域との交流も温泉祭りや盆踊りなど地域の行事に出向き、地域活動にも参加させていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

[グループホームやまなみ ユニットAに記載]

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	御本人、御家族の意向を確認しながら、個々に適したケアが提供できるよう心掛けている。戸外での散歩、活動を積極的に取り入れ、自然に触れながら健康づくりも行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の温泉祭り、供養盆踊り、敬老祝賀会などに参加している。自治体が管理しているお地蔵様の花の交換や周辺の清掃などは継続して行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館などで認知症カフェを開催しており、参加している。また地域で行われる講習会や会議にも参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入退居、感染症の状況や日々の活動、行事の様子など資料やスライドを活用しながら、会議の中で紹介している。また施設に対する要望や意見などもご家族や地域の方、委員の方から頂いており、内容も職員会議で共有している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、入居者や施設利用状況を報告している。運営推進会議で市の担当者から意見をいただく機会もある。また状況に変化があった場合には、担当のケースワーカーにも連絡を行い情報を共有している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間防犯上、17:00以降に玄関を施錠しているが、その他の時間帯は施錠せず対応している。また身体拘束をしないケアについては職員全体で研修会を開催し積極的に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置しており、年2度高齢者虐待に関する研修会を実施している。また別府市GH連絡協議会主催の研修会にも参加している。一人ひとりケアを振り返り、職員全体で虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援相談員に制度の講習を依頼したり、委員会による研修会を行っており、学びの時間を確保している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や運営規定など細かく説明し、疑問点を確認しながら同意をいただいている。特に退居につながるような体調不良時には再度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や運営推進会議などで、意向や意見交換など行えるよう機会を設けている。施設内にも意見箱を設置し、意見は職員会議などで共有し、日常に反映させられるよう心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、職員の意見を聞く機会を設けている。代表者とも運営会議で状況の報告や職員からの意見も提案し共有している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回人事考課を行っており、昇給に反映させている。資格取得後に給与に反映される為、やりがいや向上心にも繋がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修会を行い認知症ケアについて学ぶ機会を設けている。また別府市GH連絡協議会や行政開催の研修会も参加し、スキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市GH連絡協議会が開催する研修会や毎月行われているオレンジカフェなどに参加し、お互いの施設での取り組みなどの情報交換などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前相談や施設職員が訪問するなど、本人や関りのある方に情報収集を行っている。また入居直後は環境の変化への不安解消と入居者や職員との関係性の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人もしくは家族の訪問を基本とし、実際に施設内の様子を見学して頂いて、説明を行っている。不安や要望等もゆっくり聞き取りができるよう配慮しており、対応についても家族の意向を確認し、同意をいただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療機関や隣接の施設からの入居依頼が多い。主治医や家族、関係職員から情報提供をいただいております。本人、家族の意向を確認し、同意の上で支援にあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に取り組むよう努めており、一方的な関わりにならないように心掛けている。また本人の自主性も大切にしておき、活躍できる場面を模索し、職員間で共有しながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況や施設の状況などをお知らせする機会を作っている。また家族の協力が必要な場面もあり、家族のつながりは大切にしておき、行事や病院受診など、家族と共に支え合えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親族とは関係性が保たれているが、知人や友人との関係は疎遠になっている。馴染みや思い出の場所などは、レクの中で聞き取りを行う工夫をしており、デジタル機器を活用し一緒に視聴できるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業ができる活動を取り入れたり、施設内外でも関わり合える機会を提供したりしている。また職員が孤立しないよう、交流できる支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の病院や施設への移動に関しては、面会や様子の確認などを行っている。退居後にご家族と関係が継続している方は殆どいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向については、日常の中で確認を行っており、日常の気付きも共有し、ケアに繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	医療機関や併設の介護施設からの入居が多いため情報提供があり、活用している。また支援しながら最善と思われる環境に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	医療機関や併設の介護施設からの入居が多く、得た情報を基に、本人の生活リズムの把握に努めている。また一緒に生活することで、小さな発見や気付きを共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者、職員が参加し担当者会議を行っており、ケアや課題についても共有している。また日常のケアを担当している職員が意見や気付きを出しやすい環境を整えている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の日々の記録は行っているが、個別の工夫の記録に関しては不足している。細かな情報も職員間で共有し、実践できるよう検討は行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診は基本、御家族に行っていただいているが、ケースによっては職員が付き添いを行っている。また必要な手続きや日常生活用具の発注なども本人に代わって行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のコンビニ、スーパー、訪問販売等で消耗品や好みの物を購入している方もいるが、代行することが多い。訪問内容も活用し、季節に合わせ髪型などは美容師と相談し決めている。またオレンジカフェなどに参加し、参加者と交流し楽しめている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医療機関を選択されるケースが多い。持病に応じ、他の医療機関を継続して受診している方もおられる。緊急時にも備え、事前にどの医療機関を選択するか、御家族に確認も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携を図ると共に必要な情報共有を行っている。日常の健康チェックや症状の変化で病院受診を行っており、医師からの指示の共有も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	スタッフが出向き、必要な情報提供を行っている。また連携室等とも連絡を取り合い、情報共有や退院調整なども行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期をむかえるにあたり、家族と話し合いを重ね、グループホームで可能な対応を理解していただいている。また症状に応じ、御家族と連絡を密にし、情報共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や連絡体制など確認する機会を設けている。また協力医療機関や訪問看護など体制は整っているが、様々な急変がある為、今後も研修や訓練は継続し実施する必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練や風水害の訓練を行っており、緊急時の避難方法等を確認している。年間1～2度は実際に垂直避難を行うことがあり、防災意識は高い。運営推進会議でも詳細を報告し、協力体制を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助は自室のトイレを使用しており、プライバシーに配慮している。また声掛けにも注意し、自尊心を傷つけないよう対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の思いを自然に言葉にできるように、日常会話から引き出せる工夫をしている。また普段から自己決定ができるよう声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、一人ひとりの希望やペースに沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月訪問してくれる美容室があり、希望に応じ散髪を行っている。また毎日化粧を行う方もおられ、必要な道具を揃えており、爪の手入れなども行っている。御本人の好みやこだわりも大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自助具や自助食器などを活用し、できる限り自力で食事を楽しめるようにしている。また食後の片付けなど、職員や他の入居者と協力している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立に関しては併設の管理栄養士がおこなっており、バランスの良い食事が摂れている。食事摂取量や水分量も、記録し把握している。また御家族にも御本人の体調に応じ、好みの物を持参していただくなど、ご協力していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の口腔内に応じて、歯ブラシや舌ブラシを使用できるよう揃えている。また訪問歯科診療を利用できる為、継続した治療、指導も受けることができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握することに努め、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。また紙オムツ類もいつでも交換しやすいよう、配置にも気を配っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	何種類かの水分を準備しており、好みによって摂取できるようにしている。個人で購入している物やご家族が持参されるものもある。また食事の形態や量なども職員間で共有しており、オリゴ糖なども摂取される方もいる。体操や散歩など適度な運動も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上、入浴ができるよう調整を行っており、本人の希望にも柔軟に対応している。夜間の入浴は実施していないが、状況に応じては行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後は一般の家庭と同様にゆっくりとした時間を過ごせるよう配慮している。不眠傾向にある入居者に関しては、職員間で情報を共有し、日中の活動の見直しなどを行い、睡眠に繋げるよう支援している。活動後はゆっくり休息できるよう声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者ごとの薬を保管する物に、内服と薬剤情報提供書を一緒に保管している。いつでも確認できるように、毎回処方された新しい薬剤情報提供書と入れ替えている。また調剤薬局の薬剤師に相談できる体制も出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の後片付けや裁縫、作品作り、音楽鑑賞、季節の行事など気分転換が図られる活動を計画的に行っている。また外出や買い物の代行や同行を行い、好みの物を購入している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	病院や買い物が中心だが、季節の行事ではご家族や地域の方のご協力を得られるよう働きかけている。職員が対応できる人数の入居者で、外出や希望の食事処に出掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人差があるが、金銭を所持していない方が大半である。外出時に希望の物が購入できるように支援している。また制度を利用し、生活している方には制度についてや残金についての説明を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で所有している携帯電話で会話されたり、タブレットのビデオ通話で、顔を見て会話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃する際に整理整頓を行い、安心できる環境作りに努めている。壁面装飾は季節感が出るよう工夫しており、入居者の作品や散歩で摘んできた花なども飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子、ソファなど自由にくつろげるように配置している。またテーブルもいくつか準備し、共有スペースであっても小グループで会話や活動をできるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたお気に入りの物やそのまま使用できる物を持ち込み、生活しやすい環境を整えている。テーブルや椅子なども個々で使用しやすいよう、相談しながら配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事を自由に行えるよう、分かり易く目に留まるよう配置に気を配った。ポスターを貼って理解しやすいようにしている。また座ってできる家事活動やできる方は下膳・食器洗いなど他者と協力して行っている。新聞や本類も自由に読めるよう配置にも気を配っている。		